

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです。



区議会議員として、活動を開始しました!



Action

Study

Think  
Sense  
Study  
Action



# 再び被災地を訪問 福島県いわき市へ。

## 内田直之が行動したこと



私は、大震災の2週間後の3月26日～27日に、友人達と救援物資を持って、被災地である福島県いわき市を訪れました。医者としてボランティア活動していた友人から依頼があり、『放射能の風評被害で救援物資がまったく入ってこない、本当に困っているのを持って来てくれないか』との事でした。そこで、ご近所の方やブログなどでご協力をお願いをし、7坪の事務所いっばいに集まった救援物資を、いわき市の災害対策本部までお届けしたのです。

いわき市は、人口34万人の中核都市ですが、放射能の風評とガソリン不足により、街を歩く人や車がまったくいない、まさにゴーストタウンの様でした。小名浜地区などの海岸沿いの街は、津波によって壊滅的な状況にあり、地元ラジオでは、身元不明のご遺体の特徴がずっと放送されていました。テレビでは何度も見た光景ですが、いざ自分が現場に身を置くと、予想以上に悲惨で深刻な状況に、胸が詰まる思いでした。

そして、8月23日～24日に、再び福島県いわき市に行ってきました。今回は、震災直後でもあり、救援物資を届けることが主な目的でしたが、今回は自由民主党東京都連青年部・青年局での視察研修として訪問致しました。

初日は、東京都被災地支援福島県事務所、いわき市災害救援（復興支援）ボランティアセンターを訪問しました。ボランティアセンターでは、いわき市社会福祉協議会の強口常務理事、篠原課長より、災害救援ボランティアセンターの立上げ経緯と活動について、丁寧な説明と質疑に対する応答を頂き、その後実際のセンターを見学しました。現在は、復興支援ボランティアセンターと名称・機能を変更し、『ひとりの孤独死も出さない!』を合言葉に頑張っている姿が印象的でした。

翌日は、大きな被害を受けた海岸沿いの被災地を見学しました。震災直後に訪れた時は、家屋は破壊され、船や車が路上に横たわる悲惨な状況でしたが、現在は壊れた建物は順次解体され、海岸沿いの街並みは空地へと変わっていました。そこにはコンクリートの基礎だけが、寂しく残っていました。また、膨大ながれきやゴ

ミは、中学校の校庭や海岸沿いに山積みになっているままでした。

現地でコーディネートして頂いた、福島県議会の清水敏男議員からは、震災当日からの毎日の行動を、苦しい胸の内と共に語って頂きました。家族を避難させることへの心の葛藤など、本当に心に響き、胸を打つお話を沢山聞かせて頂きました。



最期に、福島県の復興のシンボルであり7月15日に再開した「アクアマリンふくしま」を訪問しました。震災と津波により、電源が遮断され海水が確保できず、飼育していた9割近くの魚が死んでしまったそうです。しかし、安倍義孝館長の強いリーダーシップのもと、各地の水族館、動物園の協力を得て、目標通り再開を果たされたそうです。

### 『風化させない』

大震災や原発事故の報道は、日ごとに少なくなっています。しかし、現地に行って改めて感じたことは、災害はまだ終わっていないということでした。風化させないことが最も大切だと感じた被災地視察でした。復興には、5年～10年かかるとは思いますが、「自分達に出来ることを、出来る範囲で継続してやること」の大切さを、改めて教えて頂きました。

東京湾沖や首都圏直下型、あるいは東南海との三連動地震など、大震災がいずれ東京を襲う可能性も指摘されています。千代田区議会にも、災害対策特別委員会が設置され、千代田区地域防災計画の抜本的な見直しに着手しています。区民の皆様方の生命と財産を守ることが、最重要課題であり、私達の使命であることを、改めて心に誓った訪問となりました。

#### 福島県の被災状況 (8月23日現在)

●人的被害	
死者	1,823人
行方不明者	142人
●家屋被害	
全壊	17,180棟
半壊	42,291棟
一部損壊	129,030棟
●ライフライン	
停電	34,287戸
ガス	全戸復旧
断水	26,159戸
避難所	393箇所
人数	64,397人



## Sense

### 旅の思い出

#### アムステルダム

(オランダ王国)

	人口76万人
	面積219km <sup>2</sup>
	立憲君主制

2006年、私はアムステルダムを訪れました。ワールドカップドイツ大会で、ドルトムントにて日本vsブラジル戦を観戦し完敗の失意の中、ケルンを経由し、ICE(国際高速列車)にてアムステルダム中央駅に到着しました。

この中央駅は、1889年開業の歴

史ある駅で、煉瓦造りのゴシック様式はアムステルダムの玄関にふさわしい風格を持っています。ここ千代田区にある東京駅とは姉妹駅だそうです。市内には花と緑があふれ、縦横に運河が広がり、運河沿いには美しい歴史的建築物が並んでいます。古い街なので道が狭い事もあり、市内にはトラムと自転車専用レーンが縦横に張り巡らされています。車道と歩道間に設けられた自転車専用レーンには、専用の信号もありました。この街では、車ではなくひとが主人公であることを、実感したことを覚えています。

人にやさしく環境にも優しいトラムや自転車が、交通の中心を担う国際都市アムステルダムは、水の都でもあり、日本の街づくりにも大変参考になるのではないのでしょうか。いつか東京も、まずは千代田区から、アムステルダムのような、ひとが主人公の街へ再構築していきたいと思っています。



## タウンミーティングを再開します!

今年の1月に西神田コスモス館、2月にお茶の水小学校、3月に神田公園区民館にてタウンミーティングを開催してきました。区民の皆様との対話型の集会として、これまで、千代田区の課題や政策案などについて報告し、ご意見やご要望を頂くスタイルでした。

今後は、タイムリーな千代田区の論点についての意見交換や、区政報告も加えていきたいと思っています。ここで頂いた貴重なご意見を、定例議会の一般質問や委員会での発言として、発信していきたいと考えています。

あるタウンミーティングで、「初心を忘れずしっかり仕事をしてくれれば、ずっと応援するから頑張れ!」との温かいお言葉は、きっと一生忘れないと思います。この言葉を胸に、これからもしっかりと勉強し、見識を深め区民の皆様方の声を大切にしていきたいと思っています。

次回のタウンミーティングにつきましては、詳細が決まり次第ご連絡致しますので、多くの皆様方の参画をお願い致します。



## 1.環境と防災に配慮した街づくりについて

### ●ヒートアイランド現象対策について

【問題の背景】ヒートアイランド現象は、緑地・水面の減少や、人工排熱の増大などにより大都市で観測される、新しい環境問題です。千代田区における熱帯夜の日数は、1935年に7日だったのが、2010年には30日にも増えています。千代田区にとって、ヒートアイランド現象は最重要課題であり、健康で快適な暮らしと安全を確保するためにも対策が必要です。応急対策としては、街路樹の増加、屋上・壁面緑化、水面の確保、建物の冷房負荷の削減などが効果的ですが抜本的な解決には、長期的視点に基づく対策も必要です。

恒久対策に最も有効だと言われているのが、「風の道」構想です。ドイツのシュットガルトで1980年代に策定された「風の道計画」が有名であり、東京都でも2003年に「ヒートアイランド対策取組方針」が策定されました。千代田区は、都内有数の貴重な冷源である皇居を抱え、神田川や日本橋川、お堀などの水面も保有、また靖国通りや中央通り、内堀通りなど、大きな道路も縦横に通っています。



### 【質問】

**ヒートアイランド現象対策として、市街地へ風を誘導する「風の道」構想を計画してはどうか？**

### 【区（執行機関）の答弁】

東京全体のランドデザインを考えたときに、温暖化対策あるいはヒートアイランド対策という観点から、風の道という概念と風の道の軸をつくっていくことは、必要だと思ふ同感である。

千代田区は平成10年に都市計画マスタープランを、平成15年には千代田区まちづくりランドデザインを策定した。その中に、まちの機能と骨格のデザインと快適環境のデザインということを大きな目標として、「風の道」を明確に位置づけている。今後もこうしたランドデザインをベースにまちづくりについて、「風の道」を基本にしながら、様々な個別の対策をやる必要があり、まさに東京都と区政のランドデザインについては一致している。

### ●CASBEE（建築環境総合性能評価）の導入について

【問題の背景】千代田区では、環境モデル都市行動計画での取組みにおいて、新築建物の省エネ化推進として、「建築物計画書制度」による省エネ対策徹底が、既存建物においては、「グリーンストック作戦」がモデル地区にて実施されています。

「建築物計画書制度」については、東京都で実施されている「建築環境計画書制度」の500㎡以下の建築物の補完的位置付けと思いますが、要求レベルが低く表示においても環境への配慮の有無がわかりづらく、改善の余地が大きいと考えています。横浜市や大阪市、柏市など、全国23の自治体でも、一定規模以上の建築物を建てる際に、環境計画書の届け出を義務付けており、その際に「CASBEE」による評価が必要となっています。

CASBEEとは、国土交通省が主導する建築物の環境性能を総合的に評価する手法で、省エネや省資源・リサイクル性といった環境負荷削減はもとより、室内の快適性や景観への配慮といった、環境品質・性能の向上も含めた評価システムです。

### 【質問】

**建築物の環境性能を定量的・客観的に評価できる『CASBEE（建築環境総合性能評価）』を、環境モデル都市である千代田区に導入してはどうか？**

### 【区（執行機関）の答弁】

CASBEEは、環境負荷削減に加え、室内の快適性や街なみ・景観への配慮など、環境の品質と性能も評価項目に取り入れたバランスのとれた総合的な評価方法だと認識している。

千代田区では、中小規模の建物の新築や増改築に際し、環境への配慮を図る目的で建築物環境計画書の提出を求めている。この制度設計に当たっては、多くの建物に対して省エネや環境対策を促進するため、届け出対象を延べ床面積300㎡以上5000㎡以下の中小規模の建物を対象とし、チェックしやすい評価項目に絞り、省エネ計画書の書類も準用できるなど、簡素化を図ったものである。昨年の10月に制度をスタートさせたところで、しばらくは制度の定着に努めたいと考えている。CASBEEは国が主導していることもあり、導入する自治体は今後も増えていくと予想され、区においてもその動向を見据え、検討を進めていきたいと考えている。

### ●建築物の耐震化について

【問題の背景】今回の東日本大震災の大きな特徴は、振動時間が非常に長かったと言われています。深度4以上の揺れが継続する時間を見てみると、阪神淡路大震災の時は20秒だったのに対し、千代田区ではなんと、130秒も揺れが続きました。震源地に近いいわき市では、190秒にもなったそうです。揺れの大きさだけでなく、揺れの長さにも考慮した耐震対策が必要です。

### 【質問】

**阪神淡路大震災後、千代田区内の公共建築物、病院やホテルなどの特定建築物は、耐震診断及び耐震対策は100%終了しているのか？ また、民間建築物における耐震化の促進についての取り組みは？**

### 【区（執行機関）の答弁】

国・都を含め区内にある公共建築物の耐震診断については完了している。また、民間の病院やホテルといった特定建築物についても、平成20年4月の調査時点で約8割が耐震性を満たしている。民間建築物の耐震化促進については、より一層その耐震化の取り組みを進めていく必要があると考えている。

マンション等の耐震化促進については、いかに利用しやすい制度にしていくか、段階的な改修を助成対象とするとともに、建てかえに対する制度上の新たな仕組みづくりも早急に研究をしていく。また、都における緊急輸送道路沿道の耐震化促進に向けた取り組みと連携しながら、耐震診断、耐震改修など支援拡充を図りたいと考えている。さらに、事業所ビルについては、課税権の制約がある中、どこまで支援するか議論はあるが、オーナー住宅併設の事業所ビルについては、千代田区ならではの住まい方、定住対策の観点から見直しを図りたいと考えている。

## 2.スポーツの推進について

### ●区立スポーツセンターについて

【問題の背景】スポーツはあらゆる世代に貢献できる活動です。子供には基礎体力やコミュニケーション能力の向上効果が、成人には生活習慣病対策として、高齢者には健康促進が期待されます。なにより、からだを動かし、楽しむ、目標にチャレンジする、勝ち負けを競うなど、人それぞれの多彩な楽しみこそ

## 千代田こらむ 神田のお稲荷さん

### Sense

少し前になりますが、近所のお稲荷さんの初午祭に行ってきました。小雪が舞う中、たくさんの町会の皆様がおみえで、このお稲荷さんが地域の人々にとっていかに大切か良くわかりました。

初午は、立春後の最初の午の日だそうです。旧暦ならば春先で、江戸時代は寺子屋の入学日だったらしいですが、新暦だと冬の寒い時期になってしまいました。



▲豊潤稲荷



▲御宿稲荷

その時思ったのですが、近所にはたくさんのお稲荷さんがある事に気がきました。自宅から5分以内に、豊潤稲荷、出世稲荷、延寿稲荷、一八稲荷などなど、9社はありそうです。

神田明神の禰宜・清水祥彦さんは、「お稲荷さんは地域社会やコミュニティの心のよりどころでもある。お稲荷さんの存在は、実は地域社会、コミュニティがいかに残っているかということの証。神田にこれだけお稲荷さんが多いという事実は、町の人たちがこうした神さまを通じて、地域の文化や生活を江戸時代からずっと守ってきたということでもある。」とお話されていました。

なるほど！お稲荷さんを守っていく事は、地域社会を守っていくうえでも大切なことだという事がよくわかりました。



▲真徳稲荷



▲出世稲荷

が、スポーツの素晴らしさです。スポーツの推進や施設の充実への投資は、福祉や保健にも寄与できると思います。

区立スポーツセンターは、昭和47年の開設以来40年近く経過し、施設全体の老朽化は顕著です。区民世論調査における、近くに欲しい施設への要望では、スポーツ施設が過去十数年にわたり連続1位であり、区民の関心が非常に高い事がわかります。逆に、長い期間にわたり要望され続けると言うことは、有効な対策がなされていないと考えられます。

### 【質問】

**区立スポーツセンターについて、改修整備の進捗状況はどうなっているのか？ また、改修整備の評価基準や立地などの抜本的な整備について、どう考えているのか？**

### 【区（執行機関）の答弁】

区立スポーツセンターの改修整備については、既存施設の有効利用とユーティリティの向上を図る観点からの整備内容に変更はないが、今年度中に改修工事の実施設計を行い、来年度は各種スポーツ大会や講習会の日程を調整しながら一定期間の休業期間を設定して改修工事を実施する予定である。改修結果の評価に当たっては、利用者満足度や利用率の推移など、具体的で効果的な評価指標を活用して検証していく。抜本的なスポーツセンターの整備計画の策定に当たっては、平成25年度の千代田区のスポーツ振興基本計画の中間改定にあわせて検討していく。

### ●スポーツの場の充実について

【問題の背景】都心にある千代田区において、スポーツができる空間を確保する事は、大変難しいと思います。しかし、区民の要望がもっとも高く、多様な効果が期待できるスポーツの推進は、区政において重要なテーマのひとつです。

千代田区には、小川町という国内随一のスポーツ街があります。例えば小川公園のフットサル場を拡大させ、電気街の秋葉原と、古書店街の神保町とをつなぎ、地域経済の活性化にも貢献できるのではないのでしょうか。

千代田区財産活用方針では、「本区が所有する土地・建物は、区民共有の財産であり、地価が著しく高

い本区においては、一層有効な活用が求められている。」とあります。現在、区所有の低未利用財産が30カ所ある中で、土地については24カ所あります。それらが活用されるまでの間だけでも、スポーツ地として有効利用が出来るのではないかと考えます。

### 【質問】

**区所有の遊休地や区内の大学の開放、民間ビルの利用など、スポーツの場の充実と有効活用について、どのように考えているのか？**

### 【区（執行機関）の答弁】

区民のスポーツ活動を支える場所の確保については、まず既存施設の有効活用を前提に、小学校の校庭開放や中学校のスポーツ開放、さらにはプールや体育館など、さまざまな複合施設を、コミュニティスクールとして積極的に地域に開放している。

区の遊休地の活用については、安全管理の問題や暫定利用の是非も踏まえて、全庁的な視点からの検討し、区内大学のスポーツ開放や民間ビルの利用については、大学や民間ビルの管理運営面での制約や本来目的の使用が優先する等の困難もあるが、引き続き連携の可能性を検討する。今後もすべての区民の皆様が気軽にスポーツを楽しめるような環境を整備し、多様化する区民のスポーツニーズに応えていく。

## 働く街から、いきる街へ。

### 内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれ B型。  
1984年国立有明高専建築学科を卒業、トステム株式会社入社。総合企画室係長、海外赴任を経て商品企画室長となり、窓やシャッターなど主力商品の戦略立案・開発プロジェクトに携わる。  
2011年5月より千代田区議会議員。一級建築士。

●委員会  
環境文教委員会  
駅及び駅周辺環境整備特別委員会

●所属団体  
東京建築士会  
NPO 神田学会  
NPO 電線のない街づくり支援ネットワーク

●内田直之事務所  
101-0041 千代田区神田須田町1-30 スナミビル3F  
Tel/Fax 03-3252-8832  
Web www.uchidanaoyuki.com  
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp